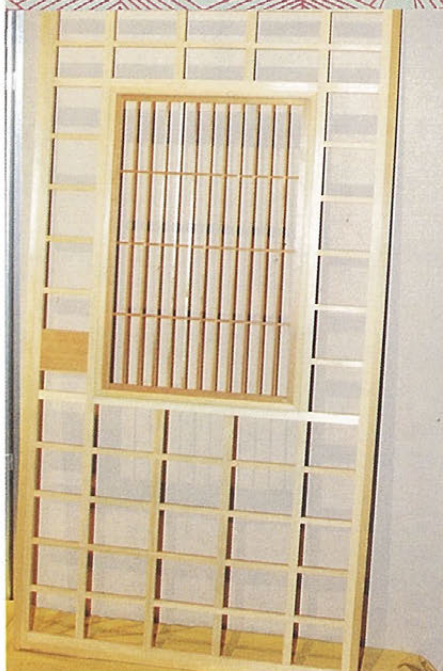
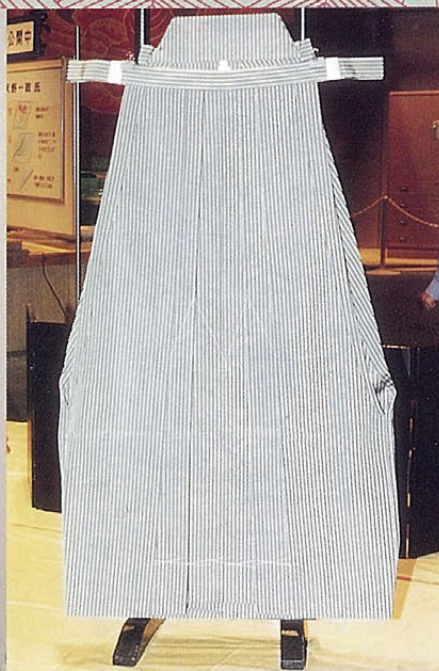


工匠壺番館展示替!!



襖 櫓



仕舞袴

下町文化

第 202 号

平成11年1月15日

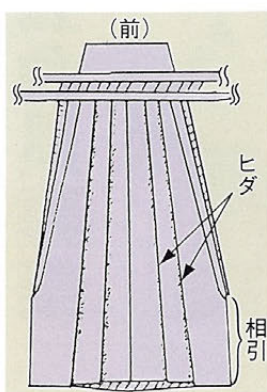
発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課

襖・置床を新たに展示 簾・仕舞袴

工匠館では、毎年、年末・年始にかけて壺番館の展示替えを行っています。本年度は、「あめ細工」に代わって、新たに「住まう」をテーマにした作品を展示いたします。昔から日本の居住空間を彩った襖（技術は襖の櫓・椽製作）・簾・置床の良さを、もう一度見直していただければと思います。また、他にも一部展示替えが行われ、これまでの裁着袴に代わって、新たに仕舞袴が展示されます。

今回、新たに展示する作品（襖・簾・置床）は、昔から木造家屋の一部を構成する要素として欠かすことのできない物でしたが、現在でも生活の中に深く根付いています。例えばマンションなどの広告を見ると、必ずといっていいほど家の一部に襖が使われていますし、街を歩いていると窓に簾を掛けている家々ときどき見かけます。置床も例外ではありません。生活形態が大幅に変わった今日でも、これらの製品は居住空間に欠かせない物、という考え方が脈々と受け継がれているようです。



が舞う際にはく仕舞袴しまはかまが展示されます。仕舞袴は、能・狂言が膝を高い位置まで上げるため、袴の形は普通のものとは異なり、相引が短く、ヒダが深くできているのが特徴のひとつです（左図参照）。

以上が新展示の概要です。いずれも日本の風土や文化に深く根ざしたものだといえるでしょう。ぜひ、一度工匠館に立ち寄って、実際にご覧下さい。

製作者紹介

今回、新展示の作品を作られた職人さんをご紹介します。

襖・櫓・椽製作

新大橋3 鈴木延坦さん



鈴木さんは、昭和16年東京渋谷生まれ。戦時中、愛知県安城市に疎開しましたが、21年に父と共に上京し、以来、現在地で仕事を続けてきました。鈴木さんは、

中学卒業後、襖業を営む父について修業を始め、技術を修得しました。現在では襖の櫓・椽や屏風・額などの製作を手掛けています。

簾製作

新大橋1 豊田 勇さん



豊田さんは、昭和13年現在地生まれ。祖父から父、父から勇さんへと受け継がれてきた技術で、簾を製作しています。簾といっても様々な種類（ちよば御簾・黒御簾など）がありますが、簾以外に海苔巻きの寿司簾や色紙掛けなども製作します。

漆工

石島16 服部啓造さん



服部さんは、明治42年埼玉県生まれ。大正13年より6年間、麻布（港区）の兄のもとで修業し、昭和22年に現在地で独立しました。漆の塗師は、道具塗師と建具塗師に大別できますが、服部さんは床の間・櫃・床板などの建具の塗りが専門です。

仕舞袴製作

深川2 杉浦武雄さん



杉浦さんは、大正3年神田（千代田区）生まれ。昭和2年に和裁仕立業を営んでいた父のもとに弟子入りし修業を始めました。和裁のうち帯・袴製作の技術を修得し、仕舞袴の仕立てなどを行ってききました。昭和14年父の跡を継ぎ、昭和45年に現在地に移転しました。

現在、和裁技術の保存と普及に努め、後進の指導にもあたっています。平成9年には、江東区優秀技能者として表彰されました。

旧大石家 友の会 会員募集

教育委員会では、旧大石家住宅の保存活動を行う「友の会」の会員を募集します。

旧大石家住宅は、今から150年以上前の江戸時代後期に建てられた区内最古の民家です。当時の庶民の暮らしぶりを今に伝える貴重な遺産として江東区の指定文化財となっています。



募集期間

平成11年1月15日～3月26日

応募資格

区内在住の方に限る。平日（月・金曜日）のいずれか1日の活動に参加可能な方。なお複数日の参加はできません。

活動場所・時間

旧大石家住宅。活動時間は午前9時30分～午後4時30分まで（ただし都合により2～3時間の活動になる場合もあります）。

※応募された方は4月26日（月）の研修会に出席してください。

問合先 生涯学習課文化財係

135-8383 江東区東陽4-11-28

3647-9111

3647-9111

3647-9111

3647-9111

3647-9111

3647-9111

3647-9111

3647-9111

古文書解読入門講座

古文書にみる江戸町人

初めて古文書を読む方のための講座です。行楽地や流通の拠点など



1月26日は文化財防火デー

毎年1月26日は文化財防火デーです。昭和24年1月に貴重な文化遺産である法隆寺金堂の壁画が焼失したことを契機に「文化財保護法」が制定され、昭和30年からのこの日が文化財防火デーに定められました。そして、全国各地で消防演習が行われます。江東区でも深川消防署と城東消防署の皆さんによる消防演習が行われる予定です（演習の場所は両消防署にお尋ね



ください。区内には、数多くの文化財が残されています。数千年、数百年の長い間伝えられてきた文化遺産を後世に伝えていくためには、私たち一人ひとりが日頃から文化財の保護に気をつけることが大切です。

◇申込先・問合

年齢・電話番号を明記の上、1月22日（必着）までに下記へ申し込んでください。

申込方法 往復はがきに住所・氏名・

教材費実費 2500円程度

対象 区内在住・在勤の方（初心者の方に限る）

会場 教育センター（東陽2-3-6）

定員 70人（申込多数の場合は抽選）

時間 午後6時30分～8時30分

会場 教育センター（東陽2-3-6）

定員 70人（申込多数の場合は抽選）

時間 午後6時30分～8時30分

会場 教育センター（東陽2-3-6）

定員 70人（申込多数の場合は抽選）

時間 午後6時30分～8時30分

会場 教育センター（東陽2-3-6）

合同企画展 講演会

教育委員会と深川江戸資料館の合同企画展「水彩都市江東の歴史とくらし—河川にみる流通・産業・文化—」が、15日から24日まで開催されます。これを記念して講演会を行いますので、是非ご来場ください。

日時 1月23日（土）午後2時～4時
会場 深川江戸資料館2階小劇場
講師 立正大学教授・東京学芸大学名誉教授 竹内 誠先生
演題 「水の都・深川」
定員 240人（先着順）
申込 電話にて生涯学習課文化財係または深川江戸資料館（☎3630-8625）まで。

回	期 日	内 容
1	2月3日（水）	古文書解読概説
2	2月10日（水）	解読実習
3	2月17日（水）	解読実習
4	2月24日（水）	解読実習
5	3月3日（水）	解読実習

☎135-8383 江東区東陽4-11-28

生涯学習課文化財係まで

☎3647-9111

（内）3361-3

新春俳句会

芭蕉記念館から

日時 1月26日（火）午後1時30分

（集合1時15分）

会場 2階研修室

内容 兼題「初旅」・新年雑詠2句、席題なし

対象 区内在住・在勤の方50人（先着順）

費用 無料。句報の送付を希望の方は80円切手貼付宛先明記の封筒をお持ちください。

締切 1月24日（日）

申込 窓口または電話で

ジュニア俳句教室

日時 2月13日（土）午後9時30分より11時30分（集合9時20分）

会場 2階研修室

内容 俳句をつくってみよう

対象 区内在住の小学生30人（先着順）

費用 無料（筆記用具持参）

締切 開催日の前日

申込 窓口または電話で

◇芭蕉記念館

江東区常盤1-6-3
☎3631-1448

伝統の技 実演公開

工芸番館（森下文化センター）

内）で行っています職人さんの今後の実演日程は次のとおりです。

2月7日 江戸切り

須田 富雄



*時間は午後1時～3時

江東歴史紀行

毛利家の砂村抱屋敷

「葛飾御屋敷図」

山口県文書館所蔵の毛利家文庫に含まれる「葛飾御屋敷図」は、約150cm四方の大きなもので、毛利家の抱地がすべて描かれています。描かれた年代は不明ですが、図中の記載より文政9年（1826）以降であることがわかります。下の見取図はこの「葛飾御屋敷図」に描かれている敷地の北側の部分です。この南側は新たに埋立てが進められた土地で、文政8年に斉熙が移居した後にも埋立てが続けられ、この絵図が描かれたころには「新開」と呼ばれる土地でした。

さて、見取図にある「御殿」は「下町文化」200号で紹介しましたが、その南側に広がる庭園は「御殿」と比較してみてもその広さが窺われることと思います。庭園の池の周囲には、「さざい山」や「天神社」「イハヤ」などが配されています。この池と西側の堀の形状は、明治44年（1911）通信協会発行の「砂村全図」にも名残がみられます。

庭園の東側には、鴨堀が造られています。飛来した鴨などの水鳥を池の周囲に掘られた水路に誘い込み、水門を閉じて捕獲するもので、水路の先には土留めがあり、ここから鳥の様子を窺うようになっていたそうです。

「鎮海園記」

同じく毛利家文庫の中に「江戸葛飾邸鎮海園の記」と題された冊子があります。

これは頼山陽が砂村抱屋敷の庭園の様子を詩文で著した「鎮海園記」を「山陽遺稿」から抜粋したものです。その中で頼山陽は、おおよそ次のように言い表しています。庭園内には池を掘り、海水を引き入れ、池を掘った土で山を築いた。馬場や射場を備え、三十六景まであった。眺望については、海を隔てて品

川まで家々が見渡せ、その眺めはまるで蜃気楼が沸き起こったかのようである。さらに富士山や信州・武州の山々がその上に覗いている。また房総の岸を望むこともできる。斉熙は、自ら船を出して網漁を楽しんだり、冬には園中で鴨や雁などの水鳥を捕獲したりして過ごした。

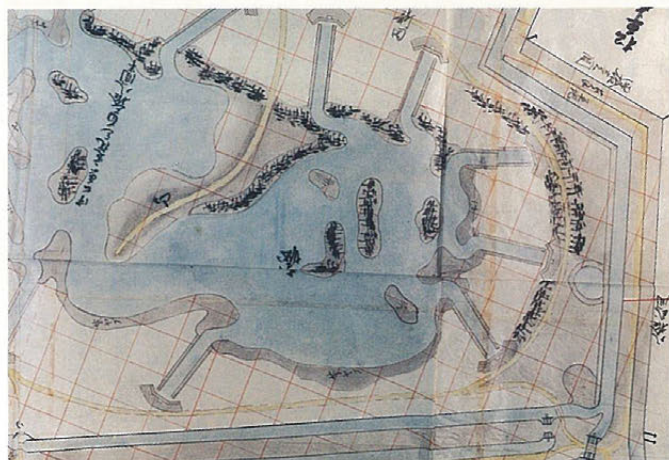
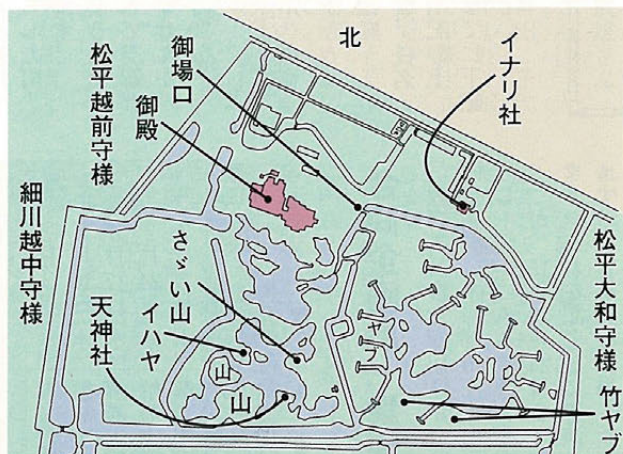
その他、当地の地理的特徴や「鎮海園」という名称の由来などにも触れています。先の「葛飾御屋敷図」と併せて、大名屋敷の一端を窺うことができます。

とができます。

おわりに

斉熙は、天保7年（1836）にこの抱屋敷で没します。その後、嘉永7年（1854）に大砲が鑄造されるまで、この屋敷がどの様に見えるに使用されたのか今のところ判っていません。しかし、約11年の間、藩主の隠居所として使用されたことにより、当時の様子を少なからず、現代の私たちに語りかけてくれます。

（文化財主任専門員 向山 伸子）



上：「葛飾御屋敷図」見取図 下：「葛飾御屋敷図」（部分）鴨堀のようす